

山野地区防犯パトロール隊（鹿児島県）

皆様、はじめまして。ただいま紹介をいただきました、鹿児島県伊佐市からやって参りました「山野地区防犯パトロール隊」です。本日トップバッターを命ぜられましてちょっと緊張しております。本日、私、古里と敷根が発表を担当させていただきます。よろしくお願いします。



活動地域の紹介

さっそくですが、鹿児島県と言えば皆さん、こういったイメージをお持ちでしょうか。新燃岳、桜島といった火山のイメージでしょうか。それとも西郷隆盛の歴史のイメージでしょうか。はたまた指宿をはじめとした温泉のまちのイメージでしょうか。一昨年は新燃岳が連日大噴火を起こして新聞を賑わせました。

そういう鹿児島県ですが、私たちの住む伊佐市は鹿児島県の最北部に位置し、北は熊本県、東は宮崎県に隣接した周囲を1,000メートル級の山々が取り囲んでいる盆地です。ですから先ほどの火山の影響を全く受けない、水と緑と観光のまちです。

そういう静かな田園町ですが、伊佐市は「鹿児島県の北海道」と言われるほど、寒暖の差が大きく、朝夕は寒いところです。



地域(鹿児島県)紹介

時には灰の街に



団体概要

さて、そういう田舎町に、このマーク「コウモリマン」です。「子を守る」ということで、ダジャレですけれども、ちょっとしゃれてこういうマークをつくりました。

隊の発足は平成20年2月です。当時、小学生に対する声掛け事案が発生したのがきっかけで、小学

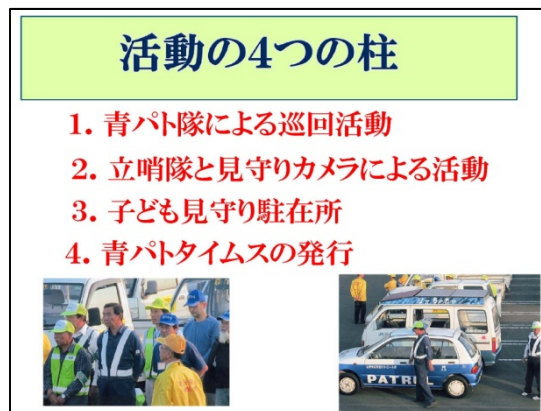
校の先生を中心に活動がスタートしました。当時は隊員 40 名、パトロール車 1 台でした。その後いろいろ活動を見直して、現在は隊員 32 名、パトロール車 3 台となりました。更に来月 11 月からは地域の皆さんの応援で、もう 1 台パトロール車をつくり合計 4 台でパトロールを行う予定です。



活動(事業)内容・特長

活動範囲には、自治会が 28 あり、小中学校の生徒数が合わせて 200 名います。パトロール範囲は、コースを合わせると約 30 キロに渡り、巡回に 1 時間を要しています。そういう田舎町、田園町です。

活動には 4 つの柱があります。まず 1 つ目が青パト隊による巡回活動。2 つ目が立哨部隊と見守りカメラによる活動。3 つ目が子供見守り駐在所。4 つ目が「青パトタイムス」の発行です。



まず青パト隊による巡回活動ですが、ご覧のとおりの日時、曜日で活動しています。観光地のため、通常パトロールのほか、夏の夜間パトロールも実施し、またシカやイノシシ、サルが出没した時は臨時に招集パトロールも実施しています。そのほか、様々なイベントにも参加して活動の場を広げています。

と活動をあれこれ言う前に一番大切なことがありました。それは、地域の方々と、まず「顔馴染みになる」ということです。老人会や地域のイベントへの参加、



と、その前に……

ふれあい活動で 顔なじみになる

老人会や地域イベント参加

年寄りや子供とのふれあい



何故ふれあい活動を 始めたか？

**高齢化率27%で
鹿児島県は全国12番目
伊佐市は県内5番目**

**独居老人訪問＝不審者扱い
子供への注意＝声掛け事案**

お年寄りと子供たちとの触れ合い活動を積極的に行っています。我が鹿児島県は全国で12番目に高齢化が進んでおり、伊佐市は県内で5番目に高齢化が進んでいます。全世帯の1割はなんと独居老人なのです。

活動を始めた頃は独居老人宅を訪問すると、不審者扱いされました。「警察とか弁護士です」と言っても疑われる時代に「青パトです」と言ったら、それは何ですかという感じでした。子供たちに、「今帰り？お帰り」と言ったら、翌日には「声掛け事案発生」と。これは困ったと思い、考えたのが日頃から顔馴染みになっておくということでした。顔馴染みであればこういうことはないんだということで始めたのが触れ合い活動です。

活動は、五右衛門風呂体験や老人会などでのマジックショー、それから地域の歴史や昔語りです。こういったことを通じてお年寄りや子供たちとの触れ合いの機会を作っています。また、今年の夏は、子供たちと川で水遊び体験をしました。それから屋外での料理教

室もやりました。工作教室は、去年は竹とんぼを、今年は本箱を作りました。このような触れ合い活動を続けました。

自分の地域のお年寄りや子供たちと顔馴染みになると、パトロールをしても不審者と間違われませんし、逆に「がんばってください」と声を掛けられるようになりました。こうなるまでに2年半を費やしたのです。

もちろん地域のお年寄りの中には、かたくなに地域との触れ合い活動を拒む人もいます。そういうと

きにどういうことをするかと言うと、例えば昔語りとか昔遊び。これはお年寄りが主役になれる、先生になれるのです。そうしてお年寄りたちをイベントに引っ張り出します。

それからもう一つ、こういう活動もやりました。これは去年、おととしの例です。登下校のコースに竹藪があり、カーブがあります。ここには何度か車が飛び込んだり、あるいはぶつかったりしていました。事故を防ぐためにまずガードレールを付けて、次に竹を伐採しました。全部ボランティア作業です。そして案山子（かかし）を立てました。それから2年、1件の事故も起きていません。

この案山子は、子供の入学のシーズンには学生服姿に衣替え、正月になると和服姿へ、そのほか、エプロン姿の昔のお母さんも出てきますし、時々お侍さんも出てきます。これは地域の方々に大変好評でした。11月中旬からはサンタクロースに衣替えする予定です。

ふれあい活動



こんな活動もします！

1例 登下校コースの危険箇所に対策を実施

その後は事故0件



立哨隊による活動

学校の先生や立哨部隊が担当
毎日の登校時



交通整理や
挨拶指導

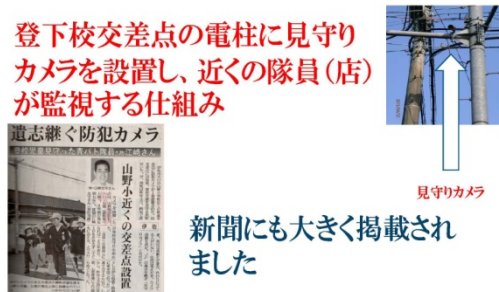
次に立哨隊による活動です。これは毎日の登下校時間に、学校の先生やスクールガードが中心になって見守り活動や子供たちへの挨拶指導を行っています。毎日顔を合わせますので、挨拶を通じて顔馴染みも増えます。

次に「子供見守りカメラ」です。これは登下校の交差点の電柱に見守りカメラが付いていて、近くの隊員が監視する仕組みです。これについては珍しいということで新聞にも大きく報道されました。

次に、これは私たちの特徴的な活動の1つですが、「子供見守り駐在所」というものがあります。これは会社や店の経営者が隊員となって、近いところでは10メートル、遠くても100メートル単位で現在19軒あります。駐在所には先に説明をしたコウモリマークが目印となっています。ここは保護者が子供たちを送り迎えする場所としても提供されています。

こども見守りカメラ

登下校交差点の電柱に見守りカメラを設置し、近くの隊員(店)が監視する仕組み



見守りカメラ

新聞にも大きく掲載されました

こども見守り駐在所



駐在所マークが目印で
送迎待ち合わせ場所にも

続いて青パトタイムスの活動です。毎月「青い回転灯」という名前で新聞を出しています。新聞の内容は、隊員の活動状況、地域の昔話、連絡・相談・コラムなどです。隊員全員が持っているパトロール手帳と巡回日誌に書かれた活動の状況などをニュースにして隊員に配っています。それで隊員相互の連携に必要な会合を必要最小限なものにしました。それから地域版「青い回転灯」は地域全戸に配りますので、青パトに対して、あるいは防犯活動に対して関心を持たれています。

青パトタイムス(隊員版)と 青い回転灯(地域版)

毎月中旬発行

- (1) 活動状況報告
- (2) 地域の昔(歴史)
- (3) 連絡・相談・コラム

- ・ 隊員への報告・連絡・相談で関心の継続
- ・ 不要な会合を減少
- ・ 地域版(青い回転灯)は地域全戸へ配布され、防犯への関心を高める



活動効果

このような活動によって様々な波及効果がありました。地域の事故、犯罪件数の大きな減少に寄与したとして、地元の警察署長から感謝状をいただき、また子供たちからは手づくりの感謝状をいただきました。今月初めには鹿児島県警察本部長表彰もいただきました。

それから同窓生への普及。自分たちを育ててくれた故郷を守ってくれてありがとうという輪が広がり、関東、関西、東海、九州と現在 150 人から応援を頂いています。また先ほども申しましたように、青パトタイムスで地域の周知、関心が増えました。

今後の課題

しかし課題があります。まず 1 つは、後継者の育成です。ボランティア活動というのは肉体的、精神的、金銭的、社会的な健康が伴わないと継続できません。そうすると、やはり 60 歳過ぎの人が活動の中心になってしまいます。でも年寄りには長く続けられません。だから後継者が現れて継続していける方法はないものかと悩んでいます。

もう一つは、少子化に伴って学校が統廃合されます。特に 2 年後は我々の育った中学校が統合されてなくなります。そうすると我々のパトロール範囲も広がるのではないかと。この 2 つについて現在悩んでいるところです。

そう思いながらもパトロールをしていると、顔馴染みになった子供たちが、手を振って大きな声で挨拶してくれます。これがボランティアの報酬なのかと考えたら、また明日からもがんばって続けていけると思っています。

ありがとうございました。

活動効果と波及効果

1. 地域の事故、犯罪件数減

伊佐警察署長からの感謝状
子供会からの感謝状
鹿児島県警本部長表彰



2. 同窓生からの支援

(自分達の育ったふるさとを守ってくれて有難う！)
同窓生からの支援は、関東、関西、東海、九州で
150人 の輪が広がった

3. 青パトタイムスの地域配布

地域版(青い回転灯)も全戸に配布するようになり
確実に地域の関心度が増した

今後の課題と対策

1. 後継者の育成

精神的・肉体的に健康・金銭的健康・社会的健康が必要
若い人には困難、年寄りには長く活動出来ない

後継者が現れるような魅力ある活動を模索中！

2. 少子化に伴う学校の統合

2年後の中学校統合が決まっている
小学校の統廃合、少子化で活動範囲が広域化しそう

広域パトロールに対応できる活動計画を検討！

ご静聴有難うございました



山野地区防犯パトロール隊(鹿児島県)

質疑応答

●質問 青色回転灯装備車(青パト)を有効に活用しておられるという印象を受けました。他方、少

子高齢化ということで伊佐市でもそれが進んでいる、というお話がありました。そういった中で今後どのような活動の展開をお考えでしょうか。

○回答 11 月から新規の青パト 1 台がスタートします。これは地域の方が寄付をしてくれました。ですからこの青パトをフルに使って、学校が統合されても遠くまで見守りできるのではないかと考えています。

また、表彰をいただいたり、地域から応援されるなど魅力ある活動ということで、「よし、じゃあ俺もやろう」という気運が高まり、後継者ができるのではないかと考えております。



公益財団法人日本財団の紹介

ご紹介いただきました日本財団で青パトの事業を担当しております高木と申します。今回はお時間をいただきまして誠にありがとうございます。

当財団では、軽自動車のツートンカラーで青色の回転灯とスピーカーが付いたものの購入の面でお手伝いをさせていただいております。地域の方が、専用車の重要性について考えてくださる機会が増えればいいなという思いもあり、私どももそのような専用車でご支援をさせていただいております。

支援の内容ですが、軽自動車の購入の総事業費の 80%、上限が 130 万円までのご支援をさせていただいております。年間 2 回ほど申請の時期を設けております。

また、当財団では 3 つの基準を設けて助成をさせていただいております。1 つ目が、地域の様々な団体の方々が協力した防犯活動を行っていること。例えば青少年育成協議会の方が独居老人の見守りのために朝夕と青パトを活用する。また P T A のお母様方が子供の見守りのために夜、青パトを活用するなど当財団として、やはり活動費用の問題等ありますが、「めざせ 365 日、24 時間」ということで、本当にコミュニティーカーのような形で青パトを使っていたらいいような状況を目指しております。

2 つ目は、地域の状況に合わせて、高齢化が進んでいたり、また気候によって車の活用が多いところとか、地域によって様々な活動の形があると思いますので、そのような地域の条件を考慮した継続的な活動計画があること。

3 つ目は、そういった地域の様々な方々が関わる体制を持つことによって、おおむね週 4 日、5 日以上の活動日数があること。この 3 つを考慮して青パトの配備団体を決定させていただいております。

「日本財団」と検索していただきますと申請方法が出てくるかと思いますので、見ていただければと思います。年に 2 回申請時期を設けておりますのでご利用いただければと思います。

また、いまお話をさせていただいたすべての情報に関しまして、「チーム青パト」というブログですべて公開しておりますので、検索して見ていただければと思います。